

地域と協同の 研究センターNEWS

2018年12月25日発行 172号

【巻頭言】

新たな大学生協事業連合が発足しました

青山 武史

全国大学生協連合会・東海ブロック事務局長

2018年11月、これまで各地域にあった事業連合が合併し、新しく「生活協同組合連合会大学生協事業連合」が発足いたしました。具体的には中国四国を除く、北海道、東北、東京、東海、関西北陸、九州の6事業連合の合併です。

合併し新たな事業連合の結成は、今後の大学の変化や社会の変化に対応をするとともに迫りくる「大学生協の経営リスクに備えること」が主な目的です。

ひとつ目のリスクは、18歳人口の減少が本格化していくため大学生を主構成員としている「大学生協の事業規模が縮小していくこと」です。ふたつ目は雇用・物流・流通の社会的変化により、事業環境が急速に変化していることです。日常の食材確保や物流だけでなく、大学入学時期のような「特定の時期に物流が多くなる等への対応」が求められています。

そして三つ目に、現在は全事業連合で累積赤字も解消し安定をしていますが、今後の不透明な時代変化の中における「経営困難化」のリスクです。大学の変革に耐えうる対応や、正規職員の空洞化や人数の多い職員層の定年問題、また新入職員の採用問題など人財の育成と活用も大きな課題であり、広域的に解決していく必要があると考えています。

これらの広域化を力とし、消費税率の改定、税額計算インボイス対応や、業務システムを大きく改修する必要があり、統一化することで重複コストを抑さえなければいけません。また経済合理性の追求によりそれぞれの大学生協のより安定した経営基盤づくりに貢献し、その基盤の下で①キャンパスコミュニティの要望に応え、②大学生協としての価値を高めていただくことが重要です。

現在、大学生協は大学本体の生き残りをかけた経営対策に伴い従来の考え方が通用しない事態が起っています。改めて「協同の原則」を中心とした運営をし、経済的基盤を固め大学や地域の中でより貢献できる存在としてその価値を高めていかなければいけません。協同組合間協同を促進し広域で改善をすすめ、それぞれのコミュニティの中で暮らす「組合員の学びと成長」、「安全・安心なキャンパスライフ」に貢献すべく、新しいスタート地点に立ったと言えるでしょう。

(あおやま たけし)

CONTENTS

- 【巻頭言】新たな大学生協事業連合が発足しました
青山 武史
- ▶ 大学生協におけるインターンシップの取り組み
原田 智巴
- ▶ 調査研究テーマ『外国にルーツを持つ人々との共生』
における協同組合の役割」中間報告 神田 すみれ
- ▶ 認定特定非営利活動法人JUON（樹恩）
NETWORKをご存知ですか。 岡本 一朗
- ▶ 情報クリップ
- ▶ 企画紹介「子ども食堂ははじめの一步」

地域と協同の研究センター 12月の活動

- | | |
|---|-------------------------------------------------------------|
| 1 | 1日(土)東海交流フォーラム第2回実行委員会, 第3回理事会 |
| | 3日(月)研究フォーラム地域福祉「柴田先生」学習会 |
| | 5日(水)尾張地域懇談会世話人会 |
| 2 | 6日(木)第7回協同の未来塾 |
| | 10日(月)市民の講座運営委員会 |
| | 11日(火)NEWS編集委員会 |
| 3 | 12日(水)研究フォーラム環境世話人会, 愛知の協同組合間協同相談
会, アジアの平和、食と文化フェア実行委員会 |
| 4 | 14日(金)第3回組合員理事セミナー, 第4回市民が協働を学ぶ講
座 |
| 5 | 15日(土)三重地域懇談会こどものまち図書館訪問 (四日市市) |
| | 18日(火)くらしを語り合う会 |
| 8 | 20日(木)第7回常任理事会 |

大学生協におけるインターンシップの取り組み

原田 智巴

インターンシップ事務局

大学生協事業連合東海地区 人事教育部

インターンシップの取り組みは、2015 年度から始まり、一般社団法人「協働・夢プロジェクト」主催で実施し、大学生協が事務局となって運営しています。今年で 4 年目となり、これまでにのべ 45 名の学生が参加しています。

インターンシップは、非営利・協同組合が地域・社会の中で担っている役割について、「人と人とのつながり（生活・くらし）」に着目し、組合員や職員と関わる中で体験的に学び、学生が自分の暮らしや社会との関わりを考える機会となること、地域社会における非営利・協同組合の役割や可能性を一人でも多くの学生に知り・知らせることを目的としています。

夏季インターンシップは、コープあいち、大学生協、南医療生協を体験先とし、8 月 21 日～25 日の 5 日間で生協について学ぶ、「生協スタディーツアー」を実施しました。金城学院大学単位認定インターンシップ参加者の他、愛知大学や名古屋文理大学、そして関西大学や福山市立大学など他県からの学生の参加もあり、計 18 名の学生が生協の特徴的な組合員活動や事業活動について学びました。

1 日目の生協の成り立ちや役割に関する座学、2 日目のコープあいち福祉事業所と店舗見学、3 日目は名古屋大学生協店舗見学と名古屋大学生協の職員の外販活動に同行。4 日目は南医療生協で「おたがいさま事例交流会」という地域での困り事を解決している事例について、組合員と職員が意見交流する場に参加しました。最終日の感想交流では、生協は組合員同士や組合員と職員、また地域との距離が近い、どの体験先でも職員や組合員の温かさを感じた、という学生の声が多くありました。

また、消費生協や医療生協の組合員意識の高さに驚く学生が多く、組合員の声が反映されているお店や施設を見て、自分達も大学生協の一組合員として意見を出してより良く変えていけることに気付き、普段何気なく使っている生協のお店を「自分たちのお店」だと呼べるように、もっとたくさん利用して意見も出していきたいとの声もありました。

あわせて、今年度から「長期インターンシップ」を実施。協働・夢プロジェクトの 3 者にゆたか福祉会、北医療生協を加え、5 つの団体を体験先として 10 月から実施しています。

金城学院大学、名古屋大学、愛知大学、愛知県立大学、名古屋文理大学、名古屋市立大学の 1 年生から 4 年生までの 10 名の学生が参加し、各団体の組合員活動や事業活動の見学、体験しました。

コープあいちでは、「商品学習会」「幼児食交流

会」といった組合員向けの企画に参加。参加組合員と一緒に学び、コープあいちが安全・安心な商品の学習会を開催していること、子育て支援をしている意義について考える機会となりました。

大学生協では、食堂で提供している食材の生産地体験に行きました。食育活動の一環として行っている生産地体験に参加し、生産者のこだわりや食にかける想いを知り、それを自分達の言葉で組合員に伝え、広げていく活動として、食堂で提供する八丁味噌（蔵元 榊塚味噌見学）、米たまご（デイリーファームを使った商品の広報物の作成、宣伝活動）をしました。



【蔵元 榊塚味噌】

南医療生協では、「健康づくりフェスティバル」の実行委員会に組合員や職員と一緒に参加しています。月に 1 回実行委員会として集まり、組合員や職員と一緒に作っていく企画として組合員がどのように関わっているのか、「協同組合」だからこそできるまちづくりを、実行委員会という企画を通して参加しながら体験しています。組合員の活気や熱意に圧倒されながらも、改めて南医療生協の組合員力の強さを実感しています。



【北医療生協】

北医療生協では、子ども食堂、無料学習支援にスタッフとして参加。地域社会が抱える「子どもの貧困」について考える機会となり、継続的に毎週学習支援に参加している

学生からは、「協同組合は社会にある問題を人と人との関わりやつながりで解決することができることに気付いた」との声があり、長期的に関わることで学生の学びや気付きが深まっています。

ゆたか福祉会は、リサイクル事業の見学交流を 12 月下旬に予定しています。

2019 年 2 月には参加学生による報告会を行い、今年度の取り組みは最後になります。

来年度は、より多くの非営利団体や協同組合にもご協力いただき、学生が興味を持てるようなきっかけ作りや、「より学び・発見のあるインターンシップ」にしていきたいと思っています。

（はらだ ともえ）

【調査研究テーマ『外国にルーツを持つ人々との共生』における協同組合の役割】

「外国人雇用に関するアンケート調査、ヒアリング調査」中間報告

神田 すみれ

(研究センター研究員, 多文化ソーシャルワーカー, コミュニティ通訳)

出入国管理法改正

12月に出入国管理法改正がされ、外国人労働者の受け入れが加速することが確実となり、新たに海外から労働力として外国人を受け入れることに関心が集まっています。一方で、1990年以来、日本で生活する外国人はこの30年で大幅に増加、定住化が進み、すでに多くの外国人とその家族が地域で生活、仕事をし、社会を支えています。この間、国が政策のないまま労働力を増やすことのみ注力してきた結果、労働、教育、医療、地域の現場では多くの課題が噴出しています。

東海三県の外国人人口

東海三県（愛知、岐阜、三重）には多くの外国人が生活しています。愛知県の外国人人口は東京に次いで全国で2番目に多く、岐阜県は13番目、三重県は14番目と、外国人が集住している地域です（法務省 2018年6月末現在）。この三県の協同組合・団体においても外国人の雇用があり、地域でも組合員と生活者としての接点があります。

研究のテーマ

すでに地域で生活している外国人、そして今後新たに来日する外国人と、共に働き、暮らし、支え合い、助け合う関係を構築していくために、協同組合はどのような役割を担い、果たしていくことが求められるのか。『外国にルーツをもつ人々との共生』における協同組合の役割」という研究テーマで、今年度から3年間、実態調査等から職場や地域における課題を把握、整理をし、協同組合が担う役割を提案していきます。

1年目の計画

1年目の今年は、研究センターの団体会員である協同組合・団体を対象に外国人雇用に関するアンケート調査、ヒアリング調査を行い、実態を把握することから始めました。11月に行ったアンケート調査では、16の団体から回答をいただきました。以下がアンケート調査の結果です。

中間報告

16団体のうち、半数を超える9つの団体では、すでに外国人の雇用がありました。外国人雇用における課題について尋ねた項目では、「言葉の壁による意思疎通」「文化・価値観の違い」を課題と考える、との回答が最も多く、次いで「在留資格等の申請手続き」、「日本人従業員との関係性」でした。多くの団体が、日本語におけるコミュニケーション、意思の疎通が課題であると考えており、具体的には、業

務上必要な日本語での読み書き、資格取得に必要とされる日本語能力の不足、言葉や文化の壁に起因する研修にかかる手間、日本語教育にかかる負担等が、実際に抱えている課題として挙げられました。

今後の外国人雇用の意向の有無について尋ねた項目では、外国人雇用の経験がない7団体のうち、5つの団体が「条件が合えば雇用してもよい」、2つの団体が「これから検討する」と回答しており、すべての団体で外国人雇用の意向があるという結果でした。「外国人の雇用を考えざるを得ない状況である」というコメントもあり、働く人の確保が困難となっている状況がうかがわれました。技能実習制度の矛盾、低賃金や労働条件等、人権の観点から外国人の雇用に対して疑問視するコメントもありました。

アンケート調査と並行して行っているヒアリング調査では、これまでに福祉分野を中心に3つの団体に現状を伺いました。3団体ともすでに定住外国人（永住者、定住者、日本人の配偶者等）の雇用がありました。今後、海外から新たな人材を受け入れるかどうかについては、うち1つが「検討を始めている」、1つが「受け入れを前提に具体的な準備を進めている」という状況でした。

今後に向けて

今後は、アンケート結果をもとに、さらにヒアリングを行い、外国人雇用における現状の把握、職場や地域での具体的な課題を整理し、協同組合が担う役割を考えていきます。その過程では、勉強会等を実施、会員の皆様と共に学び考える場の設定も考えています。

出入国管理法改正直後の12月10日、国連では「安全で秩序ある正規移住のためのグローバル・コンパクト（移住グローバル・コンパクト）」が採択され、日本もこれに署名しました。また、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」には、目標8「すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用及び働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」があり、目標8の具体目標には移住労働者について明記がされています。移住労働者は世界共通の課題であることが認識されつつあります。起きている現象を様々な観点からよく理解し、協同組合が担う役割を考え、提案していきたいと考えます。

(かんだ すみれ)

認定特定非営利活動法人 **JUON (樹恩) NETWORK** をご存知ですか。

岡本 一朗

(大学生協事業連合・JUON NETWORK 関東・甲信越地域ブロック世話人)

JUON NETWORK (樹恩ネットワーク) は、阪神淡路大震災での支援活動を契機に、1998 年 4 月、大学生協関係者と埼玉、新潟、富山、徳島を中心とした、志を同じくする者が、「共助」「協同」の社会を目指すことを目的に設立されました。設立されて以来、森林保全・育林、間伐材の利用促進、農業の応援などの取り組みを、多くの企業や生協の協力も得ながら、全国各地で展開し、2018 年に 20 周年を迎えました。その歩みの中では、学生や若者をはじめとした多くの人たちに農山漁村での自然体験や生活体験を提供し、また森林保全の大切さを広く訴え、社会的にも一定の評価を得る NPO へと成長しました。「成人」した JUON NETWORK は、今後も、人や社会を育てる大人として、一層の社会的な役割を果たします。

JUON NETWORK の主な活動は、1998 年から始まった「樹恩割り箸」の製造、「森林の楽校(もりのがっこう)」、1999 年からの「森林ボランティア青年リーダー養成講座」、2008 年の「田畑の楽校(はたけのがっこう)」などです。

「樹恩割り箸」は、①日本の森林を守り、元気にするために間伐材・国産材を使うこと、②障害者の仕事づくりに貢献すること、③食堂の排水を減らすこと、この 3 つの目的をもって生まれました。現在、全国 6 ヶ所(福島、東京、広島、徳島、埼玉、群馬)の知的障害者施設で製造されています。全国 70 以上の大学生協食堂で利用されています。

「森林の楽校」は、日本の森林の問題を、頭ではなく体で感じたい人におすすめの森づくり体験プログラムです。森林は地球温暖化防止、水源涵養、災害防止などの役割があります。ところが今、手入れがされず日本の森林は荒れています。森づくり体験・自然散策や地元の方々との交流などを通じて、森林・環境問題について学ぶことができます。ボランティア活動のきっかけとして、参加してみませんか？全国に 16 か所あり、参加者は、のべ 8,551 名(2001 年度から 2017 年度までの累計)。近くでは、「風の谷(岐阜県揖斐川町)」で毎年開催しています。

今回報告するのは、今年始まった、「南伊勢のみかん 田畑の楽校」(12 月 8 日(土)～9 日(日))です。

今回の主な作業は、「みかんの収穫(写真)」です。当日、伊勢市の宇治山田駅に集合し、南伊勢町の車で南伊勢町庁舎まで、送って頂き、開校式を行いました。今回の参加者は、事務局を含めて、6 名でした。その日は、2 時間程度収穫を体験し、宿舎(地域の集会所)に移動しました。それから、

お風呂(温泉)に入りに旅館に行きました。ここが、なかなかいい温泉でした。身体がすべすべするようなお湯でした。帰りに、夕食、翌日の朝食、昼食の買い出しです。夕食は、鍋(ほうぼう)、タコの刺身、干物(うつぼ、さめなど)を囲みました。夕食時には、地元の方、JA の方、南伊勢町の職員の方と一緒に話をしながら食べました。収穫したみかんは、「まるご」みかんということ、このみかんは、三重県のみで消費されていること、最盛期には、1600 トンあったが、現在は 500 トン位の生産量だと言うこと、また、高齢化がすすんでいること、一方では、若い方の担い手もみえるとのことなどいろいろな話を伺いました。翌日も、4 時間程度収穫作業を手伝い、閉校式を行い無事終了しました。次回は 2019 年 2 月 16 日(土)～17 日(日)です※チラシをご覧ください。

今回は、はじめてという勝手のわからないこともありましたが、非常によい体験をさせて頂きました。農業や林業なども高齢化や担い手不足で困っていることをまず、実感しました。みかんを取ってかごに入れるだけの単純作業ですが、たくさんありますから大変だと思います。また、みかん畑は、基本だんだん畑ですから、運搬も大変です。しかし、このような活動が、1 つの打開策になるのではという感じもしました。「私つくる人、私食べる人」ではなく、食べる人(消費者)が、農作業や山仕事を手伝うことで、少しずつ解決できるのでは、ないでしょうか。まだまだ、小さなことですが、多くの方の参加があれば、解決できるような気がしました。

出来る範囲で、これからも参加して行きたいと思います。みなさんいかがですか。

詳しくは JUON NETWORK の HP をご覧ください。

認定特定非営利活動法人 JUON(樹恩) NETWORK <http://juon.or.jp/>



(おかもと いちろう)

情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半歴 定価 税別
<p>▶若手職員のやる気を後押しする 職場環境・制度づくり</p> <hr/> <p>NAVI</p> <p>2018. 12 No. 801</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>特集 若手職員のやる気を後押しする職場環境・制度づくり</p> <p>＜コープのある風景＞ コープにいがた ＜今日も笑顔のコープさん生協の仲間のお仕事拝見＞ 東海コープ事業連合 清水真友美さん ＜想いをかたちにコープ商品＞ CO・OPお肉がおいしい水餃子 ＜生協大好きママ コプ山さんの 教えて！CO・OP商品＞ CO・OPサラダチキン（プレーン） ＜ZOOM IN 生協の店舗づくり＞ いわて生協 ベルフ八幡平 ＜私の本ナビ＞ 生協しまね ＜うちの生協にはこんな人がいます＞ 青森県民生協 ＜日本全国 宅配現場におじゃまします！＞ 第2回全国生協配達対応コンテスト ＜いつでもどこでも 地域とくらしを支えます＞ 生協共立社 ＜☆突撃☆あなたの町の組合員活動＞ わかやま市民生協 ＜明日のくらし ささえあう CO・OP共済＞ 南大沢を知ってほしい会 首都大学東京生協 ＜この人に聴きたい＞ 漫画家 古泉智浩さん ＜ほっと navi＞ 鳥取県生協 福井県生協連</p>	<p>2018 年 12 月 A 4 判 36 頁 360 円</p>
<p>▶誰もが働き続け、 成長ができる 職場づくり・ 人づくり</p> <hr/> <p>生協運営資料</p> <p>2018. 11 No. 304</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>巻頭インタビュー●わが生協、かくありたい！ 組織を揺るがした不祥事から改革をやりぬき 再建を実現、組合員と共に新たな歩み始める コープさが生協●代表理事 理事長 福井健一氏</p> <p>特集 誰もが働き続け、成長ができる職場づくり・人づくり</p> <p>1 組合員から求められ、地域に必要とされるのは 職員が生き生きと働き続けられる組織 ならコープ●執行役員 業務支援本部統括 仁禮雅子氏</p> <p>2 これからの時代を見据えた新人事制度を 全員参加型のプロジェクトで構築 コープみえ●代表理事 理事長 西川幸城氏 常務理事 竹内輝彦氏 人事部 部長 松本宏一氏</p> <p>3 一人ひとりの職員の状況を注意深く見守り 各部署と連携して働き続けられる職場をつくる みやぎ生協●人事教育部 部長 齋藤友章氏</p> <p>4 組織の改革は何によってもたらされるのか 「生協人共創塾」を通して見えてきたことは 日本生協連●管理本部 人材開発部 全国生協・人づくり支援センター センター長 石井 亮氏 (株)日本能率協会マネジメントセンター●パートナー・コンサルタント 恵下正純氏</p> <p>●これからの店舗事業のあり方を考える 第15回 成功事例から見えてきた宅配事業に迫る ネットスーパーの小商圈対応ビジネスモデル アイ・ティー西宮(株) ●顧問 中東 遼氏</p> <p>●全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ 第28回 宅配未利用組合員への電話掛け業務を一元化し 推進業務の情報連携とマネジメント強化も実現 コープこうべ●協同購入センター西播磨 センター長 澤田豊宏氏 宅配事業部 拡大推進 統括 南 浩氏 拡大推進マネージャー 竹内博之氏</p> <p>特別企画「子どもにとってどうなのか」を判断基準に 生協らしい保育のあり方を職員と共に考える コープおおいた●生活サービス事業本部 子育て事業支援マネージャー 株式会社コープキッズおおいた●取締役(兼) 中春日保育園理事長 佐々木猛士氏</p>	<p>2018 年 11 月 B 5 判 100 頁 870 円 (送料別)</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 (税別)
<p> 月刊 J A 2018. 12 vol. 766 全国農業協同組合中央会 </p>	<p> スゴイ農業、スゴイ J A J A 自己改革の現場から 利用者一人一人に深く関わり、家族と協働、在宅生活を細やかに支える —— J A 西条 (愛媛県) 小規模多機能型居宅介護事業所「武丈の里」の取り組み 郡山雅史 J A ・農政トピック フランスの新農業・食品法 (案) の内容とその背景について考える (下) 須田文明 きずな春秋 ——協同のこころ—— 童門冬二 私のオピニオン 中邑賢龍 手のひらにのる幸せ 河瀬直美 J A トップインタビュー 「日本一元気」な野菜産地目指す 泉 義弘 (長崎県 J A 島原雲仙 代表理事組合長) 展望 J A の進むべき道 J A 経営力強化について 山田秀顕 (J A 全中常務理事) 海外だより [D. C. 通信] 連載 91 アメリカの新たな貿易協定とバイオテクノロジー 吉澤龍一郎 平成 29 年度 J A 経営マスターコース優秀論文紹介 全国農業協同組合連合会会長賞 都市型 J A の創造的戦略 菅 俊寿 / J A 横浜 (神奈川県) </p>	<p> 2018 年 12 月 A 4 判 48 頁 年間予約 5,109 円 (消費税込) </p>
<p> ▶ 経営力のある スーパーマーケット から学ぶ ~ 経営結果が すぐれた組織は どこが違うのか ~ 生活協同組合研究 2018. 12 vol. 515 公益財団法人 生協総合研究所 </p>	<p> ■ 巻頭言 変わる売り方, 変わる買い方 天野恵美子 ▶ 特集 経営力のあるスーパーマーケットから学ぶ ~ 経営結果がすぐれた組織はどこが違うのか ~ スーパーマーケットの経営力とは何か —— 持続的な成長力の源泉を問う —— 矢作敏行 店舗のオペレーションを革新する 石川友博 ヤオコーとハローデイにおける継続的成長の源泉に関する一考察 中見真也 食品スーパー経営の新しい動向から学ぶ 岸本徹也 おいしい食卓型 SM —— 店舗事業充実への視点 —— 山田邦弘 海外優良チェーンの動向 佐藤孝一 コラム 首都圏の主要スーパーマーケットチェーンの経営を概観する —— 過去 5 年間の決算報告等の分析を中心に —— 小方 泰 ■ 時々再録 買い物サポートカー快調に走行中 —— コープおおいた —— 白水忠隆 ■ 本誌特集を読んで (2018・10) 植田 滋・本間照光 ● 公開研究会 「人生 100 年時代のライフプランニング」 (2019・2/1・福岡) </p>	<p> 2018 年 12 月 B 5 判 68 頁 </p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税別)
▶ フランスにおける 終末期医療の法制化と 患者の権利法	農協組合長インタビュー (52) 小さい農業も大きい農業もあって地域は成り立っている 根本作左衛門 J A大会組織協議案と農協福祉・厚生連医療 泉 公敏 文化連創立 70 周年記念講演会 協同組合医療運動の歴史に学び課題を展望する 院長リレーインタビュー (307) 大学の教育サテライトステーションとして、高齢者医療と産科を強化 近藤 匡	2018 年 12 月 B 5 判 80 頁 文化連誌 編集部 03-3370- 2529 *注
~~~~~ <b>文化連情報</b>  2018. 12 No. 489	一門さんのことば① 農民にとって農協とは 佐治 実 二木教授の医療時評 (165) フュックス教授の『医療経済・政策学』から何を学ぶか？ 二木 立 J A三次の高齢者福祉の取り組み 山根敏邦	
日本文化厚生農協同組合連合会	西日本豪雨災害活動報告 被災者が前向きになれるよう支援 北村由利 第7回足助病院病院祭に行ってきました！ 関根健太郎 フランスにおける終末期医療の法制化と患者の権利法 クレス・レオネッティ法と現場にみる終末期医療の実際 山崎摩耶 多様な福祉レジームと海外人材 (9) ドイツの介護保険制度と多様な介護人材 安里和晃 韓国農業の実相——日本との比較を通じて (28) 米韓FTAとISDS 品川 優 臨床倫理メディエーション (28) 在宅医療の終末期をめぐる臨床倫理 (3) 中西淑美 岡田玲一郎の间歇言 (151) 「急性期一般入院基本料」からみる病院経営の基本姿勢と役割 岡田玲一郎 野の風●庭の草刈り奮戦記 吉瀬正彦 デンマーク&世界の地域居住 (115) 総合事業通所B型「カフェあうねっと」1 (東京都新宿区、戸山ハイツ) 松岡洋子 熱帯の自然誌 (33) 世界の主食 安間繁樹 イギリスの病院 (5) ガイズ&聖トーマス病院 (4) プロジェクト 小磯 明 □書籍紹介 医療管理 ▶ 最近みた映画 鈴木家の嘘／菅原育子	

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画紹介

# 子ども食堂はじめの一步

～三河地区勉強会～

基調講演

講師：成 元哲 (ソン ウォン Chol) 氏

中京大学現代社会学部教授  
あいち子どもネットワーク事務局長

期日：2019年1月27日 (日) 13:30～16:30 (受付13:00)

会場：知立リリオ・コンサートホール2F会議室

基調講演のほか、実践報告・質問タイムもあります。  
“食事”を通じた居場所づくり・地域づくりの勉強会です。  
気楽にご参加ください。

《対象》

- 子ども食堂をやりたい人
- 子ども食堂を実際にされている人
- 子ども食堂に興味のある人
- 子ども食堂を応援したい人 など

**申込み不要 参加費無料**

**(定員 50名)**

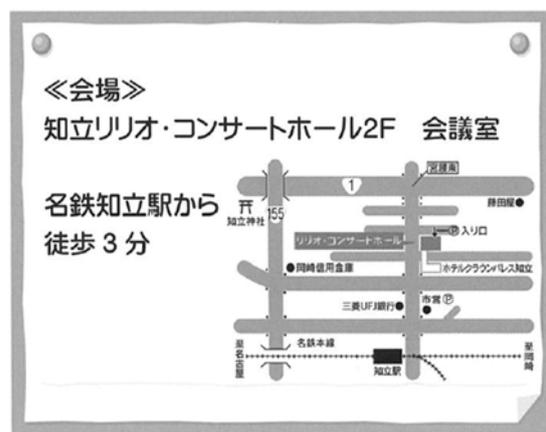
主催：あいち子ども食堂ネットワーク

共催：ちりゅっ子かふえ magocoro

後援：愛知県・愛知県社会福祉協議会・知立市・知立市社会福祉協議会

助成：名古屋名東ロータリークラブ

《問い合わせ》ちりゅっ子かふえmagocoro (石橋) E-mail:chirifuchild@gmail.com



## 地域と協同の研究センター2019年1月の予定

10日(木)第9期マイスターコース修了者実践交流会 (九鬼産業株式会社)

11日(金)アジアの平和、食と文化フェア実行委員会

15日(火)三重地域懇談会

17日(木)第7回協同の未来塾

18日(金)研究フォーラム食と農世話人会

21日(月)市民の講座運営委員会

22日(火)三河地域懇談会世話人会, 豊橋生協会館へ  
寄らまいかん実行委員会

25日(金)第5回市民が協働を学ぶ講座

26日(土)第6回共同購入事業マイスターコース

29日(火)岐阜地域懇談会